

## 〔大豆〕

### 1. 作付の概況

22年度の作付面積は全国で137,700haで、前年より7,700ha減少した（前年比95%）。九州では21,100haで前年比92%となり、減少率が全国平均より、やや大きかった。九州各県とも作付面積が減少したが、特に九州で前年首位であった佐賀県の減少率が大きかったため、本年は福岡県が首位となった。一方、沖縄県は1haながら、5年ぶりに大豆作付が統計上に記録された。

### 2. 作況の概況

本年は主産地の佐賀県、福岡県等で、播種適期の7月10日から数日間、相当多量の降雨があった。このため、播種直後の圃場では出芽不良を生じ、佐賀県で1,700ha以上、福岡県で約540haの再播種を余儀なくされた。また、再播種を行わなかった圃場でも、不出芽等による立毛数の減少や、初期生育の抑制等が生じたと考えられる。しかし、被害を受けた時期が早かったことから、再播種は7月下旬までには実施できた。このため、7月下旬の豪雨のため8月に再播種した前年に比べれば、晩播に伴う減収の程度は小さかったと考えられる。その後の天候は、概ね高温・乾燥傾向で推移し、九州では台風害はなかった。

以上の結果、10a当たり収量は九州全体では前年比106%の208kg/10aであった。また、平均収量に対する比率は128%となった。県別の単収については、佐賀県と熊本県では前年と同等であり、他の県では前年を上回った。全国の収量は前年比103%、平均収量対比100%であった。なお、前2ヶ年の単収が全国第1位であった佐賀県は、相当広い面積で再播種を余儀なくされた状況ではあったが、北海道の237kg/10aと並ぶ238kg/10aという全国最高水準の単収を引き続きあげた。

収穫量は、単収は前年より伸びたものの作付面積が減少したことにより、全国、九州とも前年比97%に減少した。

（大豆育種グループ 高橋 幹）

2010年度大豆作付面積と収穫量

県別	作付面積	10a当収量	収穫量	10a当平均収量 対比	前年との比較				
					作付面積		10a当収量	収穫量	
					対差	対比	対比	対差	対比
	ha	kg	t	%	ha	%	%	t	%
全国	137,700	162	222,500	100	△7,700	95	103	△7,400	97
九州	21,100	208	43,800	128	△1,900	92	106	△1,200	97
福岡	7,900	211	16,700	128	△130	98	113	1,800	112
佐賀	7,620	238	18,100	127	△1,220	86	100	△2,900	86
長崎	509	179	911	136	△25	95	122	127	116
熊本	2,550	180	4,590	119	△350	88	100	△630	88
大分	1,900	128	2,430	128	△120	94	121	290	114
宮崎	301	170	512	137	△32	90	102	△44	92
鹿児島	308	179	551	138	△15	95	133	115	126
沖縄	1	45	0	-	1	-	-	0	-

注) 農林水産省大臣官房統計部「農林水産統計」(平成23年4月20日公表)より引用。